

令和6年度愛知県食育推進会議 会議録

1 日時

令和6年7月19日（金）午後2時から午後3時25分

2 場所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

会長及び26名の委員

事務局として農業水産局技監はじめ34名

4 議事の概要

(1) 開会

皆様お待たせいたしました。

ただいまから、令和6年度愛知県食育推進会議を開催させていただきます。

私は本日の司会進行を務めさせていただきます、農業水産局農政部長の安井でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、愛知県食育推進会議の会長であります、大村知事から挨拶を申し上げます。

(2) 知事挨拶

皆さんこんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

本日は、令和6年度、2024年度の愛知県食育推進会議の開催をさせていただきましたところ、お忙しい中、こうして御出席をいただき誠にありがとうございます。

また、日頃から食育の推進につきまして御尽力いただき感謝申し上げます。

愛知県では2006年に愛知県食育推進会議条例をつくり、この会議を設置し、関係団体の皆様方と連携、協力しながら、食育の推進に取り組んでいるところでございます。

今年度は2021年3月に、5年計画として作成した第4次食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2025」のちょうど4年目となります。

来年度には次の第5次計画を作るということになりますので、よろしくお願い申し上げます。

そして、新型コロナウイルス感染症がありましたので、その影響によって数値目標が減少した項目もありますが、去年5月8日に2類から5類の感染症になったことで、対面での活動が全面的に再開となりましたので、これはまた改善傾向にあります。

また、学校と企業が連携する食育レシピコンテストなど新たな取組を進めております。

今後とも、このような主体同士が連携した取組をさらに進化させて食育の実践力を高めたいと思いますので引き続き御協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

本日 19 日は、愛知の食育運動の 1 つである、「おうちでごはんの日」でありますので、是非とも多くの皆さんに晩御飯を御家族、御友人とお楽しみいただきたいと思います。

さて、本日の会議では、地域で連携協力して展開している食育活動を紹介する「あいち食育いきいきレポート 2024」や、「あいち食育いきいきプラン 2025」の推進などにつきまして御協議をいただきます。

限られた時間ではありますが、忌憚ない御意見をいただきまして、実りのある会議になりますようお願いを申し上げます。

なお、2 点申し上げたいのですが、1 つは、昨日梅雨が明けまして、本日は 34 度となっております。昨日も今日も熱中症警戒アラートが出ておりました。我々も機会あるごとに、熱中症に気を付けてください、ということをお知らせして、できるだけ涼しいところに行き、水分を取っていただきたいと申し上げております。

今年の夏も暑いと予想されておりますので、この暑さを乗り越えていただいて、また楽しく食育を進めていただければというふうに思っております。

もう 1 つは、新型コロナウイルス感染症が感染拡大に入っております。愛知県内のコロナ感染者数は、先週 1 週間で大変厳しい状況になっておりますので、愛知県といたしましても、注意喚起を引き続きしてまいりたいと思っております。

本日は食育について、様々に御意見をいただき、また引き続きこの食育を推進していきますので、何卒よろしくお願いを申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

(3) 委員の出席等

ありがとうございました。

知事は公務の都合によりここで退席をさせていただきます。

それではお手元の愛知県食育推進会議委員名簿を御覧ください。

本日は委員 29 名のうち、26 名の委員の方に御出席をいただいておりますこと、愛知県食育推進会議条例第 4 条第 3 項の規定の半数以上の委員の出席をいたしておりますことを御報告申し上げます。

なお、本年 5 月の委員の改選、また、6 月及び 7 月の委員の異動により新たに 15 名の方に御就任をいただいております。

本来であれば、お 1 人お 1 人から御挨拶をいただくところですが、時間の都合により、出席者名簿をもって、御紹介に代えさせていただきます。

また、本日の会議資料につきましては、次第に配付資料の一覧を記載しておりますので、御確認をお願いいたします。

なお、会議の終了時刻は午後 3 時 30 分を予定しておりますので、御協力をよろしくお願い

いたします。

それではここからは、愛知県食育推進会議運営要綱第2条の規定により、会長代理であります、今田農業水産局長に議事の進行をお願いいたします。

議長

愛知県農業水産局長の今田と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第に従いまして、議事を進行させていただきたいと思っております。本日御協議いただくのは、『『あいち食育いきいきレポート2024』(案)について』と、『『あいち食育いきいきプラン2025』の推進について』、及び「次期愛知県食育推進計画の作成について」の3議題でございます。

(4) 議事録の署名人

本日の会議録の署名についてですが、愛知県漁業協同組合連合会 三浦委員と、愛知県農業協同組合中央会 加藤委員をお願いをしたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(5) 議題

ア 議題(1)の「あいち食育いきいきレポート2024」(案)について

議題(1)の「あいち食育いきいきレポート2024」(案)について、事務局から説明してください。

【事務局】

資料1により説明。

議長

それではここで事前に御意見をいただいておりますので、JA愛知中央会の加藤委員、御発言をお願いいたします。

【加藤勇二委員】

農協中央会の加藤と申します。よろしくよろしくお願いいたします。

先ほどのレポート2024の23ページにも掲載いただいておりますが、我々は食育だけでなく食農教育という表現をさせていただいております。

食の基となる農業、この現場も併せて、子供たちやお母さん方にしっかり御理解をいただいて、食の大切さを伝えていきたいと、こんな思いで取り組んでいるわけでありまして、ここに第1回のあいち食農教育表彰を行ったということで、県の教育委員会と連携協定を結

んだ中で、本日も名古屋学芸大学の安達内美子先生がお見えでございますが、審査委員長をお願いし、県下の小中学校に呼びかけをいたしました。その結果、ここにも書いてありますように、21校22件の応募がありました。

審査をしていただいて、上位3校については表彰の折に取組を発表していただいたということでありまして、我々も本当に驚いたというか、感心をしたと申しますか、子供たちの食育というのは、芋掘り体験とか、バケツ苗を育てるとか、食するというところが一般的な取組かなと思っておりますが、入賞された学校においては、生産から販売まで、農家がどうやって有利に持続的な農業ができるかという観点から、ネーミング、そして販売のところまでしっかりと子供たちが考えて行っているということで、また環境に優しい取組は、どんなやり方があるのか手づくりで考える、そういった発表がありまして大変感心をしたところでありまして、こういった取組は、ぜひ続けていきたいなと思ってるわけでありまして。

それを踏まえて3つ、意見を言わせていただきますと、やはり1つは、食育の元となる農業の現場、そして農業がその地域でどういう機能を果たしているのか、こういったことも、しっかり理解をしていただきながら食育について、広めていってくれるといいのではないかなと思うわけでありまして。

そしてもう1点は、学校給食でいつもお世話になっているわけでありまして、よくお伺いするのは価格が高いとか、それから、品質がそろってないとか、規格が合っていないとか、数量がイレギュラーで整わないという御意見をよく承ります。

我々供給側の責任だという話もありますけども、こういった話は全国的に一緒ではないかと思うところがありまして、この後の資料の説明にもありますけど愛知県の学校給食の中で県内産を使っている割合は4割足らずというところで、目標は45%以上であります、全国見て参りましたら、55%というのが平均数値でありました。

カウントの仕方が全国で一緒かどうかわかりませんが、ということはもっと高いところがあるのではないかなと思っております、県内でも優良な取組があると思えますし全国でも、そういった垣根を乗り越えて、優良な取組があるのではないかというふうに思っております、ぜひ、このメンバーで、地場産を活用しながら、食育を進めていただいて、地域で循環するような農業を目指していけると良いのではないかと、愛知県民になってよかったな、こんな愛知県を作っていくと良いのではないかと思います。

それからもう1点ですが、食育を進めるにあたって、物価が上がっているということで、食育を進める上での課題は、価格が野菜の価格が高いんだと、だから1つの課題だというふうに、次の資料に書いてありますが、皆さんも十分御理解いただいていると思えますが、農産物は需給で価格が決まるという掟がありまして、不作であると高くなり、ものがたくさんできると安くなるという構造なんですね。

農産物の原材料となる肥料、飼料、各資材というのは、日本を挙げて価格転嫁しなさいと、しないと罰するというような世界になっておりまして、どんどん価格が上がっているのだけど、農産物はそうやって転嫁をできないんですね。消費者の皆さまに、これで買いなさい、

なんてことは言えないわけでありまして、そういったところで農業をやる人がどんどん今減っていくと、こういうのが実態であります。

そういった中で持続可能な農業をいかに実現するのか、皆さま方と一緒に、この持続可能な食育ができるような、我々農業者でありたいなという思いもありまして、ぜひこういったことについて、御理解をいただきたいということで発言させていただきました。

よろしく申し上げます。

【事務局】

食育消費流通課でございます。加藤委員、御意見をありがとうございました。

1点目のお話なんですけれども、まず農業現場を、いかに理解していくのかというようなことのお話だったかと、賜ったところでございます。

資料でございますけれども、「あいち食育いきいきプラン2025」では、食に対する感謝の心を育むため、農林漁業の体験の機会の確保等を進めまして、生産者の方と消費者の方が連携した取組などを推進しております。

また持続可能というお話もあったのですが、環境にやさしい食生活を推進するため、生物多様性の保全など、農林水産業が持つ多面的な役割についての、正しい理解と地産地消の推進にも取り組んでいるところでございます。

先ほどのレポートの中でもございましたが、御紹介をいただきました23ページの横の部分の24ページの下段を御覧いただきますと、刈谷市で実施されました、「親子農業体験教室・親子農作物収穫体験教室」という取組も、一部紹介させていただいているところでございます。

刈谷市内の親子を対象にいたしまして、旬の野菜の栽培とか収穫体験を行い、生産者の方と、消費者の方々の交流が図られたということで、記載しております。

消費者の方々が、実際に土に触って体験すること、それから生産者から農林水産業の果たしている役割について伝えてもらうことで、興味を持ってもらうなど理解を深め、特に販売店や飲食店などで、県産農林水産物の積極的な利用推進に、繋がるものというふうに思っております。引き続き、このような取組を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、次に給食について、先ほど委員が御指摘されたように、使用量が確保できないことなど、価格の話がどうしてもつきまとうところではございます。

私どもといたしましては、学校給食の県産の農産物の使用促進に関する各市町村の担当者と意見交換会や、県産農産物の学校給食導入推進プロジェクトチームという会議を開いてございます。

課題の共有を図っているところでございまして、今後もできる限り導入できるような形で、関係者の間で情報共有を図っていききたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、最後に価格のお話が、引き続き出ていたわけなんですけど、なかなか需要と供給のバランスで価格が決まってしまうというところでございますが、これは難しい問題だなと思っております。

おそらく農政全体としても、その辺りの話は出てくると思います。食育だけではなくて、その辺りも含めまして、また検討することで、農政の大きな動きも見ながら、盛り込んでいけたらなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。
以上です。

議長

加藤委員、よろしいでしょうか。

【加藤勇二委員】

ありがとうございました。

議長

それでは他に御意見、御質問のあります方、挙手をお願いできますでしょうか。御指名させていただきますので、団体組織名とお名前を述べられてから御発言をお願いしたいと思います。特によろしいでしょうか。

貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

「あいち食育いきいきレポート 2024」につきましては、いただきました御意見等を踏まえて作成公表をさせていただきますと思います。

なお最終的な微調整につきましては、事務局に一任いただくことで御了解いただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

では次に、議題(2)の「あいち食育いきいきプラン 2025の推進について」に移らせていただきます。

初めに資料2に基づき、プランにおける数値目標の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

「あいち食育いきいきプラン 2025」の数値目標について、プラン概要版、資料2、参考資料により説明。

議長

続きまして資料3に基づき、担当課から「あいち食育いきいきプラン2025」の主要な取組につきまして、紹介をさせていただきます。

【事務局】

「あいち食育いきいきプラン2025」の県の主要な取組について資料3により説明。

議長

ありがとうございました。

ただいま説明した内容につきまして、事前に御意見をいただいております。

初めに、愛知県小中学校PTA連絡協議会の長谷生委員、御発言をお願いいたします。

【長谷生委員】

愛知県小中学校PTA連絡協議会から参りました副会長の長谷生と申します。

保護者の立場でこういった会に参加させていただき大変ありがたく思っています。

私の方からお願いと質問を2項目させていただきたいと思います。

最初に資料3の1ページの、2に出ている「わが家の愛で朝ごはんコンテスト」、こちらなんですけれども、こちら我が家でも応募してみたことがありまして、最優秀賞をとった作品の写真を見ても理想の朝食を、親子で考える機会としてとても良い取組だと思っています。

ただ現在、共働きの家庭も増えて、なかなかゆとりを持って朝ごはんを作ることはできないという家庭も多い中で、手抜きをしているというふうに残りを感じている保護者の方の声を聞くこともよくあります。

そこで気負わず作れて、とにかく手軽で、でも栄養バランスは良い朝ごはんの提案というものを保護者向けにいただけると、日頃手をかけられなくても後ろめたさを感じているような保護者の方にとっては、とても心強くて安心感が持てるのではないかと思うので、ぜひ御検討いただけたらと思います。

【事務局】

愛知県教育委員会保健体育課でございます。

まず朝ごはんコンテストにつきましては、子どもさんと保護者の方が朝ごはんについて、一緒に作ってみたり考えたりする機会ということで、テーマを設けずに、例えば、特別の日食べる朝ごはんであるとか、体力をつけるための朝ごはんですとか、また委員から御意見がありましたように、朝手早くつくれる朝ごはんとか、色々なテーマで子供たちが、朝ごはんを応募してきておりますので、我々としては、1つのテーマに絞らずやっております。

それとはまた別で、保護者の方に一般的に、手軽にできて栄養のある朝ごはんをという御意見かと思っておりますので、それは各学校に給食の試食会がありますというお話を先ほどしま

したが、そういったところでぜひPRしていきたいと思っております。貴重な御意見ありがとうございました。

【長谷生委員】

ありがとうございます。

あともう1点なんですけれども、資料2の4に出ている食育推進ボランティアから食育を学んだ人数というところなんですけれども、こちらの資料3の7ページにも、数値がこう細かく出ておまして、2020年にコロナ禍の影響だとは思いますが、激減した後には緩やかに増えてると思うんですけれども、2023年の現状値が2019年までと比較しても半減していて、他の数値の項目と比較しても減少幅が大きいという印象があって少し気にかかりました。

この食育を学んだ人数について、2点教えていただけたらと思います。

1点目は、コロナ禍を経て少人数開催など活動が縮小傾向にあるということなんですけれども、この人数だけでなく、イベント数自体の変動はどうかという点を教えていただきたいです。

2点目は、昨年度、シンポジウムや講習会を開く際に、アーカイブ配信が行われているということだったんですけれども、そのアーカイブ配信の参加者は、この食育を学んだ人数に含まれているのか、それともアーカイブ配信の参加者を含めると、実際はもっと、より多くの方が、食育を学ぶ機会を持っていたのか、わかる範囲で教えていただけたらと思います。

よろしくをお願いします。

議長

それでは食育消費流通課の方からお願いします。

【事務局】

長谷生委員どうもありがとうございました。

2点の御質問ということで少人数開催という部分で活動が縮小しているのかというお話があったわけなんですけど、まず愛知県食育推進ボランティアの活動内容につきましては、食育推進ボランティアから食育を学んだ人数、それから、学校・企業などの連携回数を毎年度御報告をいただいております。

その積み重ねがその数字になっておりますが、イベント数につきましてはコロナ前の2019年度と直近の2023年度について比較いたしましたけど、大きな増減はございませんでした。

一方で、食育推進ボランティアが他の団体と連携した取組は増えてきてございます。

先ほどの資料の1の27ページの下段を御覧いただけますでしょうか。

大府市健康づくり食育推進協議会が実施した「親子講座 昆布大使直伝！～白だしを作

ろう～」というような形で、一般社団法人の日本昆布協会が認定する昆布大使というような方と連携をした取組でございます。

昆布についてしっかり学ぶことができたということで非常に好評となっているところであり、このような新たな取組が展開してきております。

ですので、内容的に人数が少し縮小しているというよりは、非常に中身の濃い連携がどんどん増えていって新たな動きが出てきていると、ある意味「SHIN 化」をしていっているというふうに認識をしております。

それからアーカイブ配信のお話があったかと思えます。

この人数につきましてはカウントをしておりますので、今後、食育ボランティアの研修会や県が実施するシンポジウムでもこういうものをどんどん活用できるような形で情報発信も含めながら、アーカイブ配信もカウントをしていけるようになればいいと思っております。

以上です。

【長谷生委員】

はい。

ありがとうございました。

議長

それでは続きまして、名古屋学芸大学の安達内美子委員から、食育推進ボランティアに係る内容で、同様の御意見をいただいておりますので、御発言をお願いいたします。

【安達内美子委員】

名古屋学芸大学の安達です。よろしく願いいたします。

私もこの食育ボランティアから食育を学んだ人数がなかなか伸びてないこと、回復してないことが、心配でしたが、今お答えにあったように、アーカイブ配信の方の人数を把握されてないということで、逆にそこにすごく可能性があり、アーカイブ配信などによって一気に、食育を学んだ方の人数を増やせるチャンスと思います。

せっかくコロナで得たノウハウである、アーカイブ配信だったり、オンラインでの配信であったりなど、ICT活用についてボランティア研修交流会で活用の仕方を教えていただけると、ボランティアの方々も受講者をもっと増やせるのではないかと思います。ぜひよろしく願いいたしたいと思います。

以上です。

【事務局】

貴重な御意見、安達委員どうもありがとうございました。

これから反映させていきたいなというふうに思っているところですが、先ほども少し触れさせていただきましたが、ボランティアに対する研修会、それからシンポジウムなんかにおきまして、どんどんDXが進んでおりますので、このようなものを活用した取組が広がるような形で考えていきたいと思っております。

また、数値目標につきましては御心配をおかけしておるところでございますが、今後はアーク配信の参加者など、集計方法も検討ができればよいかと思っております。

なお、当課の方では、動画配信サイト上に、「あいち食育いきいきチャンネル」というものを開設しております。

過去に開催いたしましたシンポジウムや調理講習会など、いつでも視聴できるように配信しておりますので、ぜひお時間がありましたら、御覧いただければと思っております。

以上です。

議長

安達委員、よろしかったでしょうか。

それでは、今後の食育の推進におきましては、各団体の取組も重要でございますので、皆様からももう少し詳しく御紹介いただく時間を設けさせていただきたいと存じます。

では、農林業関係の取組について、竹生委員、いかがでしょうか。

【竹生委員】

御指名ありがとうございます。

愛知県農業経営士協会副会長をしています竹生と申します。

本来であれば、愛知県の生産者の代表という形でお話できるといいんですけども、何分、役を引き継いでまだ3ヶ月ちょっとということで、愛知県全体のことはよくわかっておりませんので、昨年と、あと今年予定しています豊川市の取組をちょっとお話させていただきます。

昨年は学校給食の場で栄養教諭の方と、市の農務課で連携して、そこから私ども経営士協会にお話が来てモデル校2校で、食育の授業に合わせて私たち生産者が学校に赴いて、豊川市の農業について、10分間程度ですけれども、お話させていただきました。

私、豊川の片田舎で大玉トマトを作っているんですけども、せっかくの場ですので、大玉トマトをカットして子供たちに、給食の時間に一緒に食べていただいて、なおかつ、豊川市の農産物をお土産という形で子供たちに持って行っていただいて、家庭で調理して、そのあと感想をいただいたりもしました。

昨年そんなことをやらせてもらったんですけども、本年度はさらに範囲を広げたいということで、大型ショッピングセンター、イオンモールさんと、連携させていただいて、市の保健センターと農務課が連携という形で、食育イベントを実施しようと考えています。

保健センターの方では、カゴメさんのベジチェックを使ってどのくらい野菜が摂れてい

るかというようなことを見てもらいながら食育相談というようなことも実施する予定です。

愛知県は野菜の摂取量が全国ワーストだというお話は聞いているんですけども、なかなかそれが改善されていないと思いますので、野菜を1食100グラムぐらいは食べて欲しいなということで、イベントの当日は、カットした野菜を100グラムをめぐりに、自分たちでチョイスしてもらって、これが100グラムだよ、というのを当ててもらおうと思います。

そこで、私たち経営士協会も、一緒に参加させていただいて野菜のこと、農業のこと、そんなことを一緒にお話ができたらと、そんなイベントにしたいなというふうに思っています。

以上です。ありがとうございました。

議長

続きまして企業における取組について、新たに公募委員となりました坪内委員、いかがでしょうか。

【坪内委員】

はい。御指名ありがとうございます。日本食糧新聞社の坪内と申します。

私は今、あいち食育サポート企業団という、企業団の事務局を務めさせていただいております。

本日は、あいち食育サポート企業団の活動について御紹介させていただければと思います。

皆様のお手元の方に、食育ハンドブックというものをお配りしておりまして、今年の6月の食育月間の際に、企業団の団長企業である食品スーパーのヤマナカさんの方で配布をさせていただきました。

食育企業団は愛知発祥の食品にまつわる企業が12企業参加しておりまして、年間で12イベントほど食育のイベントを実施しておりまして、その中で、企業同士のコラボのレシピを作成したりしています。

6月に関しましては、愛知県産野菜とのコラボでレシピを作成し、こちらのお手元のリーフレットのほうに掲載させていただいて、お客さんに配布させていただきました。

今後もまだまだイベントをしていきますので、リーフレットに載っているホームページやあとインスタグラムも4月から併設いたしましたので、そちらにて今後もイベント情報などを見ていただければと思います。

また何かありましたら会議の後などに、御質問などあれば、私の方にお尋ねいただければと思います。

以上です。

議長

どうもありがとうございました。

続きましてエシカル消費等に係る取組について、横田委員、いかがでしょうか。

【横田委員】

コープあいちの副理事長をやっております、横田です。よろしくお願いたします。

資料1の30ページにも記載がありますので、参考にしていただければと思います。

コープあいちでは、食を通じて環境や社会に配慮したエシカル商品や商品ロスに取り組んでおります。

組合員と一緒にやる環境活動の一環としまして、2021年度から継続して、「SDGs エシカルチャレンジ」という試みをしました。

当初は親子で、エシカル消費、SDGsを学んでいただくために、年3、4回なるべく夏休みとか冬休みの期間に設定し、エシカルチャレンジシートを作りました。

この取組は環境に配慮した取組ですが、お子さんと食について一緒に考える点では、食育に繋がると思っております。

当初、食品についてはエシカルマークを集めることから始めました。

コープの商品には環境に配慮したマークのついた商品がたくさんあります。

例えば、これは私たち独自のものなんですけれども、コープ「栽培自慢」は地球環境の安全性に配慮して生産管理をしている生産者が栽培する、農薬使用量を削減またはおいしさを追求した農産品についているマークです。

また、「コープサステナブル」マークは、未来に繋がる環境や社会に配慮した主原料を使っている商品など、取り決めがあります。

その他、色々な環境とかに留意したマークなどがいっぱいあります。

その意味を親子で知る機会にもなるのでそういった取組を始めました。

またその他にチャレンジシートには、食品ロスについて、家庭で考えてもらう取組を、クイズ形式などで行っております。

2023年は、6月の環境月間、10月の食品ロス削減月間に合わせて行いました。

参加者は徐々に増えて、当初目標5,000人を設定しておりましたが、6,184人の参加になりました。

また若い世代の方にも取組やすく関心を持っていただくために、Web活用シートなどにも取り組みました。

これは若い世代に、関心を持っていただくと同時に、紙資源を減らす、CO₂排出量を減らす取組にも貢献したと思います。

引き続きコープあいちとしてこうした取組を行っていきたいと思います。

以上です。

議長

どうもありがとうございました。

貴重な御意見、取組を紹介いただきましてありがとうございました。

今後とも皆様方と連携しながら、あいち食育いきいきプラン 2025 の取組を推進して参りますので、どうか御協力をお願いいたします。

【事務局】

資料 4 に基づき、議題（3）次期愛知県食育推進計画の作成について事務局より説明。

議長

ただいま説明いたしました内容について、事前に御意見いただいております。

名古屋学芸大学の安達委員、御発言をお願いいたします。

【安達内美子委員】

国との整合性も大事だと思いますが、概要版の裏の数値目標を御覧ください。まずこの 4 本柱については、このままでもいいと思っています。4 本柱の 1 である、食を通じて健康な体を作るための目標ですが、食事のバランスに関する目標もあるとよいと思っています。

また、今日の会議の中でも何回も野菜の摂取量の話が出てきたかと思いますが、食事のバランスを考えたときに、国の方では主食、主菜、副菜がそろった食事が 1 日 2 回以上といった目標になっています。副菜は野菜とキノコ、海藻、イモを主材料とした料理です。そこで野菜料理と副菜について、一般の方たちにはなかなか区別もつかないですし、国の目標である野菜 350 グラムには、イモ、キノコ、海藻は含まれません。しかし、日本人の食事考えたときにいろんな種類のキノコ食べたり、いろんな種類の海藻を食べたり、特に愛知県では海苔もよくとれます。日本の食事の特長を含めて、みなさんが混乱することがない、よりよい目標にしたいと思っていますところでは。

あと 2 についてですが、共食ということで家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合を増やすことについて、もう一度、共食ってどういう意味があるのか、共食のよさとは何か、というところを確認しながら、県民ができることから取り組める共食の新しいあり方などを提案できるといいと思っていますところでは。

あと 3 について、こちらも国との整合性があるかと思いますが、災害への備えに関する目標も必要ではないかと思っていますところでは。

また、地震を防止することできませんが、気候変動に対しては食事のあり方を見直さなければいけないと思います。環境負荷低減のための食事のあり方なども目標に入れる必要があるかと思っています。食品ロスや地産地消だけでなく、もう 1 歩踏み込んだ行動の目標が、組み込まれていくといいと思っていますので、御参考によりしくお願いいたします。

議長

ありがとうございました。事務局から回答をお願いします。

【事務局】

はい。食育消費流通課です。安達委員、各種御意見大変ありがとうございます。

いろいろ気づきを与えていただいて大変ありがたいと思っております。

次期プランにおきまして、今いただきました各種御意見は、大変貴重なものだと思っております。

そのような観点を含めまして、来年度の計画作成の際には、ぜひ検討していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

議長

ありがとうございました。他に御意見、御質問等ございますでしょうか。

特によろしいでしょうか。

貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

次期愛知県食育推進計画の作成にあたりましては、いただきました意見を踏まえまして、公表させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、議題（4）その他について、本日チラシを配布しております。

「もっと噛んで、歯ッピーレシピコンテスト」について、愛知県歯科医師会浅井委員、御紹介をお願いいたします。

【浅井委員】

愛知県歯科医師会副会長の浅井と申します。

皆様のもとにありますA4版のチラシでございますけれども、愛知県歯科医師会は、口腔機能の育成、並びに食育を事業の大きな柱の1つとしてとらえております。

昨年も紹介させていただきましたが、今年も愛知県歯科医師会の食育推進委員会が中心となりまして、愛知県の後援をいただき、愛知県栄養士会さんとの共催で、「第14回 もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト」を開催いたします。

すでに募集が始まっておりますが、この場をお借りしてもう1回紹介させていただきたいと思っております。

本コンテストは、児童生徒の思いが伝わるレシピ、愛知県の食材をメインにしたレシピ、年配の方が美味しくいただける、よく噛んでいただけるようなレシピのそれぞれを、キッズレシピ部門、地産地消 地元を食べよう部門、高齢者向け部門の3部門で募集するものでございます。

詳細な募集要項、応募用紙は愛知県歯科医師会ホームページから入手できます。締め切りは9月5日でございます。

本コンテストを通じまして、多くの方々によく噛んで食べることの大切さを知っていただきまして、健康な生活習慣づくりに役立ていただければと願っております。

先日、実際に昨年度の受賞作品の中から幾つかのメニューを実食する機会を持ちました。

よく噛むということは、かたいものを噛むというものではなくて、野菜などの食物繊維が多い食べ物などを利用して、自然と咀嚼回数が増えることを目指すものだとことを実感しました。

実際に食べてみると、知らず知らずに、30回40回と噛むメニューがたくさんございました。

本年度より昨年までの個人応募ではなく、グループ応募を受け付けることになりました。

まだまだ募集期間がたくさん残っておりますので、奮って御応募いただきたいと思いますし、特に学校関係者の皆様には、夏休み期間を使って、応募促進をしていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

議長

どうもありがとうございました。

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。

委員の皆様方には議事の進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。

県といたしましては、あいち食育いきいきプラン2025に基づきまして、今後も引き続き食育の推進をして参りますので、皆様方におかれましては、それぞれのお立場から食育を推進していただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

どうも本日はどうもありがとうございました。

それでは、進行を司会に返します。

(6) 閉会

以上をもちまして令和6年度愛知県食育推進会議を閉会させていただきます。

委員の皆様方には、お忙しい中御出席をいただき、ありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

会議録署名者
